

## 建築学科4年（派遣時）

千葉 満照 さん

この留学は上海の学生との交流はもちろん、大地震の恐怖や対策など経験によって得た知識を生で彼らに伝えること、それが私たちの目的だったと言えます。私自身、本学の建築学科に所属している以上、それは使命でもあり希望でもありました。もちろん私が別の学科だとしても、伝えることには意義を感じていたと思います。上海で主に交流したのは日本語学科や建築学科の方々でしたが、そこに若干の言葉の壁はあれども、震災に対する関心と強い主張を彼らから感じる事ができました。



彼らとのコミュニケーションにおいては、「私は何を質問したらよいか？」を常に考えさせられていた訳ですが、積極的な彼らのする質問はたわいもなくシンプルなものでした。考えてみれば初めて会う日本人同士であれば、こうも深く考えに耽ることはなかったと思います。ふとそんなことに気付いた頃からでしょうか。私が同済大学の方々をはじめ、いろいろな中国の方々に話しかけるようになったのは。

上海では日本で見ることのない建築やファッション、テレビ、風習、文化、言語などが、次々と移り変わるフィルムのように目に入り込むのです。生活形式の違いから慣れない点や不満な部分はありましたが、いつまでも日本を基準に一喜一憂している自分が間違っていることに気付かされました。交換留学とは文化の違いを照らし合わせるのではなく、他を知り、他を受け入れることだと気付いたのです。考えを改めてからは、また中国の都市や人々は違って見えるのです。

2週間の留学は、彼らを知るには短すぎる期間だったと言えます。また逆にどれだけのことを彼らに伝え切れていたのか今でも気がかりです。しかし、伝え切れていないからこそ、またあの地を踏み入れ、もう一度言葉を交わしたいと思うのだと思います。同済大学の方々を友として接することができたことは、私にとって学部生活の中で最も実り多い経験だったと感じています。それは決して気取って言うわけではなく、それだけ彼らが私たちに敬意を払い、友情を感じさせてくれた人たちだから言えるのだと思います。

同済大学学生との再会を願い、ここに留学期間の「ありがとう」と敬意を表します。

## 建築学科3年（派遣時）

石川 泰斗 さん

私が今回の留学で一番印象に残ったのは浦東新区にある上海環球金融中心でした。上海の中心は黄浦江を隔てて西は黄浦区、東は浦東新区に分かれています。



黄浦区には外灘（バンド）と呼ばれる観光エリアがあります。この一帯は19世紀から20世紀前半にかけての租界地区であり、当時建設された西洋式高層建築が立ち並んでいました。それに比べ、浦東新区は高層ビルが立ち並ぶ近代都市でした。

上海環球金融中心は浦東新区の中でも陸家嘴（りくかし）金融貿易区と呼ばれる金融、貿易、サービス業があつまる商業地区に存在します。高さ492mの上海環球金融中心の中にはスカイウォークという名の世界一高い展望台があり、そこから上海の街を眺めることができました。空に架かる橋のようなスカイウォークはガラス張りの廊下となっており、そこから眺める風景は建物が模型のように見え、鳥目線で上海全体を見渡すことができました。東方明珠電視塔など上海を代表するタワーや至る場所に点在する高層ビルの意匠は一つひとつ異なるものであり、まさに近代都市を思い浮かばせる風景でした。地震の影響が少ない大陸だからこそ成し得た高層ビルの群は迫力がありました。巨大なスケールで展開している建造物が列居した風景は山脈を連想させ、上海の街に横たわっていました。また、夜になるとそれらの建造物は鮮やかにライトアップされ、昼には見られなかった姿を現します。時間とともに変化する街は人々を魅了する空間を作り出していました。私は今回の留学で上海の世界観に引き込まれました。

最後に2014年には上海環球金融中心の隣には高さ632mの上海タワーが完成します。現在建設中とのことで、上海の新たなシンボルとなる建物がだんだんと形を成しています。最先端の近代都市として進化を続ける上海を肌で感じる経験はいかがでしょうか。

## 建築学科3年（派遣時）

遠藤 祈 さん

今回の交換短期留学は、建築見学と学生との交流を中心に行われましたが、同済大学で基礎中国語や中国建築文化に関する講義も受けてきました。

中国の建築文化に関する講義では、中国と日本の街並み形成の違いについて学びました。その内容としては、中国の市街地では、建物に門牌号という住居番号が付与され、道路を基準に付けられているということでした。そのため初めて訪れた観光客などでも、その法則を知っていれば、建物を探しやすいそうです。それに対し、日本の住居表示は市街地のうち市町村が定めた区域を対象としており、街区方式がほとんどであるため、他の地域から来た人や観光客などは目的地を探すのが難しいそうです。この講義を受けてから、自由行動をした際に、建物がどこにあるのか分からないということがありました。その時に講義で学んだことを思い出し、門牌号を確認しながら目的の建物の番号を探しました。通行人に道を尋ねながらでしたが、比較的簡単に目的地に辿り着く事が出来ました。このように講義で学んだことを実際に体験することで、より理解が深まったと思います。これは、実際に現地に行かないと分からない事なので、とても貴重な経験となりました。



今回、ニュースや普段の勉強等だけでは分からないことを実際に自分の目で見て、体験できたことは、私の人生においてかけがえのない経験となりました。また、今までとは違った視点に立ち、日本を見直す良い機会になったと思います。今後は、このような経験をたくさんの人にしてもらい、幅広い視点を持った学生が増えてくれればと思います。